

# リトルワールドキャンプ 14 活動報告書



平成 29 年 8 月  
静岡県立大学公認クラブ  
リトルワールドキャンプ実行委員会

## I. 私たちのミッション

静岡県には、様々な国の文化をもった方々が住んでいます。しかし、日常生活でその文化に接する機会はあまり多くありません。そこで、様々なレクリエーションを通し、子どもたちが異文化に興味を持ち、理解する場を作りたいという思いから始まったのが、リトルワールドキャンプ（多文化共生キャンプ）です。「私たちは多文化共生キャンプを企画・運営することによって静岡県内に住む子どもたちが身近な異文化との関わりを意識して、それを受け入れていけるようなきっかけを提供します」というミッション（活動指針）のもと、毎年改善を重ねてキャンプを行っています。

## II. 活動内容

平成 29 年 7 月 15 日から 17 日に静岡県立焼津青少年の家にて、2 泊 3 日でキャンプを行いました。参加者は子どもが 27 名（うち 1 名欠席）、大学生スタッフ 23 名、通訳 1 名、顧問 1 名、合計で 51 名でした。一日目に運動会、ナイトウォーク、二日目にレクリエーション、ペットボトルロケットづくり、キャンプファイヤー、三日目には劇づくりとおわかれの会を行いました。以下に、各プログラムの詳細を紹介いたします。

### <1 日目>

施設に到着し、入所式で施設の職員のかたのお話を真剣に聞いた後、芝生の広場に移動して運動会の開会式を行いました。言語の壁を越えるため、最初の自己紹介では身振り手



#### ▲綱引き（運動会）

振りを活用することでお互いの趣味を伝え合うことができました。このとき、三日間生活班のリーダーを務める子どもも話し合って決めました。大漁旗に様々な色の手形を付けた後、先ほど決まった生活班のリーダーたちが三日間の目標を宣誓することで、運動会と三日間のキャンプが始まりました。昼食は各自持ってきたお弁当を、海の見える広場で食べました。運動会は赤・青・黄の 3 つのチームに分かれて競い合いました。走り回るスタッフが背負ったかごに各自のチームカラーの玉を投げ入れる玉入れ、二人組で息を合わせて進む障害物リレー、チームで協力するボール送り・ムカデ競争・綱引き。どれも全力でやるなかで、子どもたちは数時間前まで名前も知らなかった友達と仲良くなっていきました。夜はナイトウォークをしました。生活班ごとで道中に隠されたクイズを解き進み、最後に事件の犯人が分かるというものでした。夜道を懐中電灯で照らしながらクイズを探すことで十分なワクワク感を得られたのか、三日間の活動の中で、ナイトウォークが一番印象的だったと話す子どもも多くいました。

<2日目>

午前中は「海の国」と「山の国」の2チームにわかれて、国のシンボルを作り、氷鬼やドッチボールなどのレクリエーションの中で国ごとの団結力を競い合いました。国のシンボル作りでは、それぞれの国のテーマに沿って子どもたちが自由に思い浮かぶものを描き、それらを一つにまとめて完成させました。それぞれの絵に子どもたちの個性がみられましたが、一つのシンボルとしてまとめることで



▲ 「海の国」シンボル

一体感も得られました。「氷鬼」は、世界の様々な国の「ありがとう」を2人組で協力して使うことによって、凍ってしまった仲間を助けられるルールを設けました。子どもたちが大きな声を出しながら、一日前に初めて会った仲間と協力して助け合う姿が見られました。

午後は、ペットボトルロケット作りをして実際に飛ばし、夜にはキャンプファイヤーをしました。ペットボトルロケット作りでは、自分の作ったロケットに色を塗ったり絵を描いたりして、自分だけのペットボトルロケットを作って飛ばしました。子どもたち同士で、作り方のわからないところを教えあう姿もみられました。キャンプファイヤーでは「進化



▲ ペットボトルロケット作成

じゃんけん」や「猛獣狩りゲーム」をして、最後に「マイムマイム」を踊りました。猛獣狩りゲームではただ指定された人数に集まるだけでなく、与えられた質問について集まった人たちで話し合うコミュニケーションを間に取り入れたゲームにしました。マイムマイムでは踊りになれた後に、通常よりも早い速度の音楽に合わせて踊ることに挑戦しました。全員で手を取り合って、大きな声で掛け声を出しながら元気よく踊りました。子どもたちの気持ちも最高潮に達し、言語の違う子どもたち同士でも仲良く笑い合う姿が見られました。

<3日目>

3日目は午前中から午後にかけて、劇づくりを行いました。劇づくりでは、3グループにわかれ、台本に沿って与えられた選択肢からストーリーを選び、グループごとにお話を決めるところから始まりました。そして配役を考え、実際に衣装をつくり、午後に発表を行いました。ストーリーを話し合う場面では、話せる言語に関係なく積極的に意見を交換し

ている姿が見られえました。衣装づくりでは、それぞれ細部にまでこだわったともかわいらしい衣装を制作していました。発表では時々笑いもおこり、各グループの工夫と個性の現れた発表となりました。

最後に 3 日間の締めくくりとして、おわかれの会を行いました。おわかれの会では 3 日間の感想発表と、2 日目に使用



▲ みんなで魚を釣る創作劇

したバンダナを使ってメッセージ交換を行いました。感想発表では、子どもたちがキャンプで楽しかったプログラムの話、文化や言語の壁を越えて新しい友達ができ、次回もぜひ参加したいなど、たくさんの嬉しい声を聞くことができました。メッセージ交換では、3 日間で仲良くなった友達やスタッフと、たくさんのメッセージを交換しました。バンダナにいっぱいになった日本語・ポルトガル語や絵を見て、3 日間という限られた時間の中で、子どもたちにとって異文化を知る有意義なキャンプになったのではないかと感じました。

### III. 事前準備

6 月 24 日には、消防署の方々に静岡県立大学までお越しいただき、安全講習会と救急講習会を開いていただきました。これには、企画スタッフとボランティアスタッフが参加しました。AED の使い方や胸骨圧迫、人工呼吸などの一時救命処置の方法を全員が学びました。さらに、災害時やけがの対応のための緊急対策マニュアルを作成しました。

また 7 月 1 日には、キャンプ参加者の保護者説明会を静岡県立大学で行い、顔が見えるキャン



▲ 救命講習の様子

プを目指すとともに、保護者の方が抱えている不安や心配な点を少しでも解消できるよう努めました。

キャンプ直前の定例ミーティングでは、キャンプに参加するスタッフ全員が集まり、結団式を行いました。この式には顧問の津富先生にも参加していただき、全員の意識を高めることができました。

《お問い合わせ・ご質問》

静岡県立大学公認クラブ リトルワールドキャンプ実行委員会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1 静岡県立大学 リトルワールドキャンプ

Email [little\\_world\\_camp@yahoo.co.jp](mailto:little_world_camp@yahoo.co.jp)

HP <http://littleworldcamp.jimdo.com/>